

研究主題

思いやりの心をもち、

自他の関わりを

大切にして生きる

児童の育成

— 伝え、深め、認め合う

「特別の教科 道徳」の授業づくり—

挨拶 福生市教育委員会教育長 川越 孝洋

今年度から、小学校において「特別の教科 道徳」が全面実施されました。今回の改訂では、答えが一つではない道徳的な課題に対して、児童が自分自身の問題として向き合う授業への転換が求められています。

本校では、研究主題「思いやりの心をもち、自他の関わりを大切にして生きる児童の育成」を掲げ、授業展開の工夫、考えを交流する場の設定、個人内評価の充実の3点の手だてを中心に、研究を深められました。いずれも、これからの道徳教育の充実に資する研究となりました。本校の研究の成果が、福生第二小学校の児童はもとより、市内の全小・中学校の道徳教育の充実に還元されることを期待しています。

結びに、御指導いただきました元 全国小学校道徳教育研究会会長 金子 和明 先生に御礼申し上げますとともに、安藤 臣一校長先生をはじめ、福生第二小学校教職員の皆様に感謝申し上げます。

挨拶 福生市立福生第二小学校 校長 安藤 臣一

本校の教育目標の一つである「思いやりのある子」の実現を目指し、今年度より本格実施される「特別の教科 道徳」の研究に取り組むことを全職員の総意で決意し、この2年間研究を進めてまいりました。

道徳科は初めて教科化されるということから、戸惑いと手探りの研究となりました。これまでの「道徳の時間」との違い、「考える道徳、議論する道徳」への転換、そして評価。

一つ一つ研究授業を重ねながら、教職員もまた議論し、考えに考えて仮説や手だての検証を進めてまいりました。まだまだ研究道半ばですが、研究の成果を児童の学ぶ姿でお見せいたします。どうぞ忌憚のない御意見を賜りたくお願い申し上げます。

結びになりますが、本研究を2年間にわたり御指導いただきました元 全国小学校道徳教育研究会会長 金子 和明 先生に御礼申し上げますとともに、研究の機会を与您いただいた福生市教育委員会の皆様に感謝申し上げます。

福生市立福生第二小学校

〒197-0003 福生市熊川 623

電話 042-551-0954 Fax 042-530-7441

# 1 研究構想図

学校教育目標  
よく考える子 ◎思いやりのある子 体を大切に使う子

## 研究主題

思いやりの心を持ち、自他の関わりを大切にして生きる児童  
—伝え、深め、認め合う「特別の教科 道徳」の授業づくり—

## 目指す児童像

【低学年】  
身近な人に温かく接し、  
互いに仲良く助け合う子

【中学年】  
相手のことを思いやり、  
互いによさを認め、  
協力し合う子

【高学年】  
誰に対しても思いやりの  
心を持ち、互いに尊重し、  
高め合う子

【くまがわ学級(低)】  
身近な人に温かく接し、  
互いに仲良く助け合う子  
協力し合う子

【くまがわ学級(高)】  
誰に対しても思いやりの心  
を持ち、互いによさを認め、  
協力し合う子

## 研究仮説

道徳科の特質及び授業の基礎・基本を踏まえながら、

- ★1 ねらいに迫るための授業展開を工夫し、
- ★2 多面的・多角的な考えを交流する場を設定し、
- ★3 児童の意欲を高める個人内評価を積み重ねていけば、

各部会の目指す児童像に迫り、

「思いやりの心を持ち、自他の関わりを大切にして生きる児童」が育つであろう。

研究主題に迫る手だて 「要」としての道徳科の授業づくり

### ★1 ねらいに迫るための授業展開の工夫

- ◎教材分析に基づく発問構成
- ◎児童を惹き付ける教材提示

### ★2 多面的・多角的な考えを交流する場の設定

- ◎思いや考えを伝え、深め、認め合う話し合い活動
- ◎自分の思いや考えを整理する書く活動

### ★3 児童の意欲を高める個人内評価

- ◎学習を振り返る児童による自己評価
- ◎一人一人の成長を認め励ます道徳ノートの活用

指導と評価の一体化

児童の視点に立ち、教材の特色を生かす教材分析

道徳科年間指導計画

教育全体計画とその「別葉」

「まなこ」取組 (相手意識の育成・「きりっ」と生活)

思いやり大作戦 (自他の関わり・人間関係形成力の育成)

## 2 研究主題に迫るための手だて

### 1 ねらいに迫るための授業展開の工夫

#### ◎教材分析に基づく発問構成

以下の4つの視点のもと教材を分析し、発問構成を考えることでねらいに近付けるようにする。

- (ア) ねらいとする道徳的価値に関わる道徳上の「問題」は何か。
- (イ) ねらいとする道徳的価値を実現しているのは、誰の、どんな言動・心か。あるいは、よりよい方向へ変容するきっかけとなったものは何か。
- (ウ) 児童は、誰の立場・視点から感じ考えようとするか。
- (エ) 児童の心に強く響く場面等（物語の山場となる情景描写や語句）はどこか。

#### ◎児童を惹き付ける教材提示

- ・児童の実態や教材の内容に合わせて提示の仕方を工夫する。
- ・ICT、劇、ペープサート、紙芝居、範読などにより学習意欲を高めたり、内容を理解させたりする。

### 2 多面的・多角的な考えを交流する場の設定

#### ◎思いや考えを伝え、深め、認め合う話し合い活動

- ・動作化や役割演技を基に話し合うことにより、実感を伴って道徳的価値を考えられるようにする。
- ・ペアや班ごとに話し合うことで、互いの考えや思いを伝え、認め合えるようにする。
- ・話し合いの観点を与えることで、考えがより深まっていくようにする。

#### ◎自分の思いや考えを整理する書く活動

- ・学習シートや道徳ノートに自分の思いや考えを書き、交流の場に生かせるようにする。
- ・友達の意見や考えを付け加えることで、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

### 3 児童の意欲を高める個人内評価

#### ◎学習を振り返る児童による自己評価

終末（つなぐ）では、学習の取組についての自己評価を行う。

- ①すすんで学習した。「関心・意欲・態度」
- ②今日のテーマについてたくさん考えた。「思考・追求・変容」
- ③友達の話をよく聞いた。「話し合い（聞く・受け止める）」
- ④自分の考えを話したり、書いたりした。「話し合い（表現・伝える）」

毎時間同じ評価項目にし、児童自身が重要なポイントを意識して学習に取り組むことで、自己の成長や課題をより実感できるようにする。

#### ◎一人一人の成長を認め励ます道徳ノートの活用

- ・道徳ノートを継続的に活用し、自己の学びを振り返ることができるようにする。
- ・児童の道徳的価値に対する思いを受け止め、児童に成長を実感させるとともに、道徳科の学習に対してより主体的に臨めるようにする。

## 2-① ねらいに迫るための授業展開の工夫

### 低学年部会



#### ◎教材分析に基づく発問構成

端的で分かりやすい発問を工夫したり、必要に応じて補助発問を取り入れたりすることで、理解を促し、児童が学習に集中できた。

#### ◎児童を惹き付ける教材提示

教材内容に関する具体物を用いることで、中心発問となる場面の登場人物になりきって心情を考えることができた。

また、ICT機器を活用して挿絵を紙芝居風に提示することにより、教材への理解が深まった。

また、教師による範読の質を高めることで、教材への理解を深められるようにした。

### 高学年部会



#### ◎教材分析に基づく発問構成

教材の中で児童が一番心に響くところを中心発問とすることで、ねらいとする道徳的価値に迫ることができた。

また、発問構成に基づいた板書計画を立て、児童の思考の流れに沿った板書にすることで教材の内容理解が明確になり、深く考えることができた。

#### ◎児童を惹き付ける教材提示

ICTを活用し、長文の教材でも、登場人物に吹き出しを付け、アニメーションにして提示したことで、教材への理解が深まった。

### 中学年部会



#### ◎教材分析に基づく発問構成

児童は教材を、誰の立場に寄り添い、読み進めるのか考え、発問を構成することで、登場人物の心情を理解することができた。

また、学習する内容項目についての事前アンケートの結果を導入で活用することで、内容項目について考えることにつながった。

#### ◎児童を惹き付ける教材提示

ICT機器を活用し挿絵を紙芝居風に提示することにより、興味・関心を惹き付け、教材への理解が深まった。

また、教科書をあえて見せずに範読をすることで、内容理解への意欲を高めることができた。

### くまがわ学級部会



#### ◎教材分析に基づく発問構成

中心発問では、登場人物になりきることで、自分と重ね合わせて考えや気持ちに迫ることができるようにした。

また、補助発問を効果的に取り入れて、より深く考えさせることができた。

#### ◎児童を惹き付ける教材提示

児童が身の回りで経験する状況を劇やパネルシアター、ペープサートなどを活用して教材提示することで、興味をもって取り組み、教材の内容をより理解して課題に取り組むことができた。

## 2-② 多面的・多角的な考えを交流する場の設定

### 低学年部会



#### ◎思いや考えを伝え、深め、認め合う話し合い活動

ペアやグループで発表し合う活動を行うことで、自信をもって、考え方や思いを交流できるようになった。

また、教師のサポートを得ながら役割演技を行い、それを基に話し合うことで、登場人物の立場に立って考えることができた。

#### ◎自分の思いや考えを整理する書く活動

学習シートに自分の考えをまとめ、それを基に全体で話し合うことで多様な考え方に接することができた。

### 高学年部会



#### ◎思いや考えを伝え、深め、認め合う話し合い活動

観点を与えて、考えを深めていく話し合い活動を行った。児童は自分の意見と友達の意見を比べながら聞き合うことで、道徳的価値に対して多面的に考えることができた。

#### ◎自分の思いや考えを整理する書く活動

中心発問において、まず自分の考えを整理しながら学習シートに書く活動を十分に行った。

考えを整理してから交流に臨むことで、自分の思いを正しく相手に伝えることができた。また、友達の考えも付け加えて書くことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

### 中学年部会



#### ◎思いや考えを伝え、深め、認め合う話し合い活動

班での話し合い活動を通して、互いの考えを発表し合い、多様な考え方を共有することができた。

役割演技を行った後に、感じたことや思ったことを話し合うことで、多様な考え方に気付くことができた。

#### ◎自分の思いや考えを整理する書く活動

自分の思いや考えを記述後に交流の場を設けることで、友達の考えを知り、考えを広げ、深めることができた。

### くまがわ学級部会



#### ◎思いや考えを伝え、深め、認め合う話し合い活動

ペアでの話し合い活動を行うことで、全員が自分の思いを伝えることができた。

また、役割演技を行うことで、児童一人一人がねらいとする道徳的価値について、実感を伴って考えることができた。

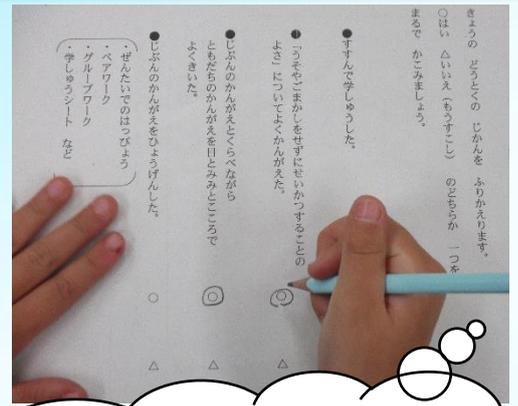
#### ◎自分の思いや考えを整理する書く活動

毎時間学習シートを用意し、自分の考えを書いて発表することにより、考えの交流ができるようになった。

## 2-③ 児童の意欲を高める個人内評価

### 学習を振り返る児童による自己評価

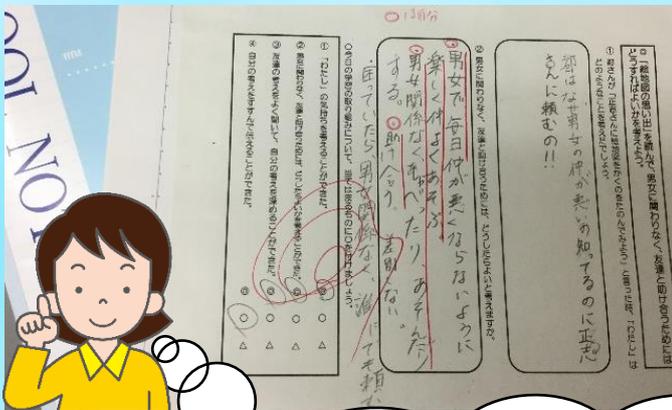
<p>●本学習のふり返りをしましょう 当てはまるものに丸を付けましょう。</p> <p>○すずんで学習した。</p> <p>○「公事」にせつるためには、どんな気持ちをもてはよいか についてよく考えた。</p> <p>○自分の考えとくらべながら友だちの考えを目と耳と心でよく聞いた。</p> <p>○自分の考えを表現した。</p> <p>(全体での発表、ペアワークやグループワーク、道とノート、えんじ色)</p>	<p>●本学習のふり返りをしましょう 当てはまるものに丸を付けましょう。</p> <p>○すずんで学習した。</p> <p>○「わがままな行動をしないようにするために、大切なこと」についてよく考えた。</p> <p>○自分の考えとくらべながら友だちの考えを目と耳と心でよく聞いた。</p> <p>○自分の考えを表現した。</p> <p>(全体での発表、ペアワークやグループワーク、道とノート、えんじ色)</p>	<p>●本学習のふり返りをしましょう 当てはまるものに丸を付けましょう。</p> <p>○すずんで学習した。</p> <p>○「自分がせつるためには、どんな気持ちをもてはよいか」についてよく考えた。</p> <p>○自分の考えとくらべながら友だちの考えを目と耳と心でよく聞いた。</p> <p>○自分の考えを表現した。</p> <p>(全体での発表、ペアワークやグループワーク、道とノート、えんじ色)</p>
<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>



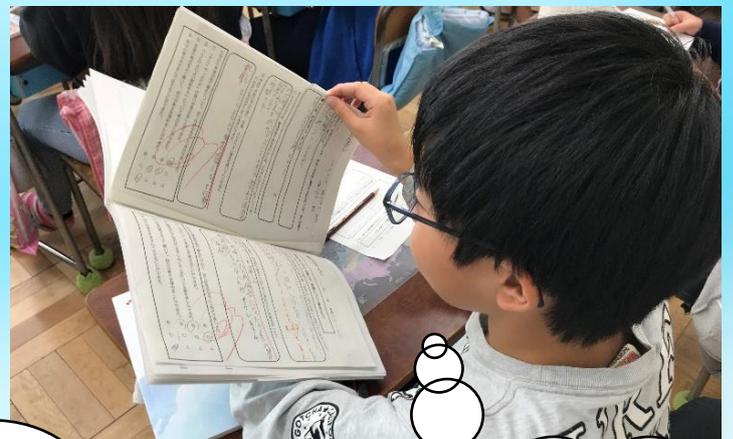
今日はたくさん考えて楽しかったなあ。  
友達の考えもたくさん聞くことができたなあ。  
自分の考えも伝えられたなあ。

学習の取組について自己評価を行うことで、児童自身が重要なポイントを意識して学習に取り組むことができた。積み重ねていくことで、自己の成長や課題をより実感できた。『友達の話を聞いた』という項目を入れることで「自他の関わり」「認め合い」を意識させた。

### 一人一人の成長を認め励ます道徳ノートの活用



□□くんは、「友情について考えた。」の項目に◎がついているから、友情についてよく考えられたんだなあ。前回の友情の学習は、○だったから、今回の学習で深まったんだな。これからの生き方についても自己を見つめられているなあ。



前の学習はどうだったかなあ。こんな風に考えていたのか。前よりも友達の考えと自分の考えを比べるようになったな。

本時で使用した学習シートやアンケートは道徳ノートに貼り、自己の学びを振り返ることができるようにした。教師が児童の思いを適切に評価することで、児童が自分の成長に気づき、主体的に学習に臨めるようになった。

### 3 研究主題につながる学校全体での取組

#### 思いやり大作戦

〇年生に注目！1か月間、じっくり見てよいところをたくさん見付けよう！！

#### 熱視線



「ありがとう」の手紙が直接相手に届くよー！



防災訓練で、避難所体験。私たちは家族。みんなで助け合いましょう！

#### たてわり班活動



#### そろえる取組

あいさつは目を見て。その後、気持ちを込めてお辞儀しよう。

#### 分離礼

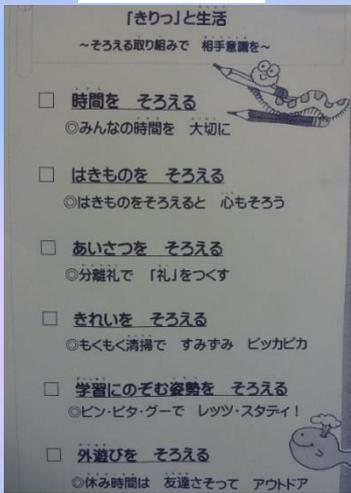


#### 靴のかかと



かかとを靴箱のへりに合わせると、靴がぴったり、心もぴったり！

#### 6か条



みんなで守って気持ちのよい学校生活！大好き二小！

#### 道徳のまど

他のクラスはどんな学習をしているのかな。毎回、楽しみだな♪



なるほど！こんな方法もあるのか。次回の道徳でやってみよう！豊かな心が育つといいな。



## 4 今後に向けて

### ◆成果◆

- ・道徳科の授業づくりを一から研究することで、ねらいに迫るための発問の構成を組み立てられるようになった。
- ・自他の関わりを意識した様々な話し合い活動の場を工夫することで、児童がより意欲的に授業に参加するようになり、考えを深め合えるようになった。
- ・児童が毎時間の授業の中で自己評価を行うことで、より意欲的に学習に参加できるようになった。また、道徳ノートから、児童の学習状況の変化を見取り、評価することができた。さらに、児童の自己評価を「道徳性を育成する学習指導過程の評価」につなげ、授業改善に生かすことができた。
- ・教育活動全体で、思いやり大作戦を実施したことにより、他者との関わりを大切にしようとする意識が広がり、長所を見付けようとする姿が見られるようになった。

### ◆課題◆

- ・道徳的価値について深く考えさせるための揺さぶりや投げかけについて、さらに研究していく必要がある。
- ・発達段階に応じた意見の交流、話し合い活動をより工夫していく。
- ・授業中の児童の学習の様子を計画的に評価していく方法をさらに追究していく。
- ・今年度の取組で定着してきた規律と相手意識をより確かなものにしていく。

### 今後の実践に向けて

副校長 古井 進

教材研究の方法、発問構成の工夫を通して少しずつ道徳科の授業に近付きつつあった我々に、衝撃を与えたのは、道徳の評価でした。「個人内評価とは?」「評価とめあてとの関係は?」と混乱しましたが研究してきました。その結果、本校教員の道徳授業は大きく変わりました。話し合い、認め合う授業に。道徳的価値に向かって深く考えていける授業に。そして、自分の伸びを実感し、次への意欲につなげていく授業に。まだまだ道半ばですが、今後とも子どもたちのためにさらに精進していきます。

2年間の研究を支えてくださった 元 全国小学校道徳教育研究会会長 金子 和明 先生、また研究の機会を与えていただいた福生市教育委員会の皆様に深く感謝いたします。

### 御指導いただいた講師の先生

元全国小学校道徳教育研究会会長 金子 和明 先生

### 福生市教育委員会教育部

参事兼教育指導課長 井尻 郁夫 先生

統括指導主事 林 宣之 先生、酒見 裕子 先生

指導主事 鈴木 輝 先生、重末 祐介 先生

### 研究に携わった教職員

◎研究主任

H30 年度教職員		H29 年度教職員	
校長	安藤 臣一	教諭	白井 明子
副校長	古井 進	教諭	田邊 雅絵
主幹教諭	浅野 亨	教諭	長谷川 紘子
主幹教諭	西村 学徳	教諭	上村 沙耶
主任養護教諭	兒島 奈保子	教諭	坂井 裕哉
主任教諭	魚住 里枝	教諭	鈴木 紀子
主任教諭	◎中村 麻衣	教諭	西村 光明
主任教諭	曾我石 美佳子	教諭	若月 雅人
主任教諭	藤田 和代	教諭	岡田 悠希
教諭	中村 好夏	教諭	村田 陸
教諭	瀬戸 靖夫	教諭	酒井 正利
教諭	井下 知紀	教諭	横川 真唯

H29 年度教職員	
副校長	萩原 聖
教諭	越智 政之
教諭	吉村 佳織
教諭	篠原 政隆
教諭	石川 彩加
教諭	細谷 早希
教諭	大谷 佐和子
教諭	岸本 靖乃